

## 令和4年度 助産師職能委員会 活動報告

### ■委員名

委員長：竹崎裕子

副委員長：松浦美恵

委員：赤松薫 石岡伸子 大野美香 足立茜 峯岸美恵子 都留美恵子  
井上理恵子 小谷真知子 牛越幸子

### ■活動目標

1. 全世代型地域包括ケアシステム推進に向け多職種連携の構築を図る。
2. 助産師間、および他職種との連携を強化する。

### ■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和4年4月15日	12名	・保健師助産師看護師職能合同交流会 開催準備 ・情報交換
2	令和4年5月20日	12名	・保健師助産師看護師職能合同交流会 詳細決定 ・保健師助産師看護師合同職能集会の役割決定
3	令和4年7月2日	10名	・委員会開催日程の決定 ・活動内容の役割分担 ・10月 保健師助産師看護師職能合同交流会について
4	令和4年8月19日	8名	・10月 保健師助産師看護師職能合同交流会について ・産後ケア事業について現状把握 ・各施設でのコロナ対応の現状について情報共有
5	令和4年9月16日	10名	・10月 保健師助産師看護師職能合同交流会について ・産後ケア事業について ・母子のための地域包括ケアシステム推進会議、助産師職能委員長会の報告
6	令和4年10月15日	11名	・保健師助産師看護師・支部合同交流会
7	令和4年11月11日	11名	・地区別助産師職能委員長会報告 ・令和4年度活動報告について
8	令和4年12月10日	10名	・近畿地区助産師職能合同研修会（オンライン） テーマ「助産師本来の役割を再確認しよう！」
9	令和5年1月6日	10名	・令和5年度看護協会の重点方策・重点事業について報告 ・次年度活動計画について ・保健師・助産師合同会議報告 ・令和5年度保健師助産師看護師職能集会のテーマ検討
10	令和5年2月17日	10名	・理事会報告 ・令和5年度保健師助産師看護師職能集会について検討
11	令和5年3月17日	10名	・全国助産師職能委員長会の報告 ・周産期及び小児期の保健・医療にかかわる専門家会議の報告 ・令和5年度活動計画について

<p>■活動内容</p>	<p>1. 保健師助産師看護師合同職能集会  日 時：令和4年6月16日 9：30～12：00  場 所：兵庫県看護協会 ハーモニーホール  内 容：令和3年度助産師職能委員会活動報告  令和4年度助産師職能委員会活動計画  基調講演 テーマ：長引くコロナ禍の今、大切にしたい看護職の心のケア  ～働く人を守るために～  講 師：兵庫こころのケアセンター センター長 加藤寛 氏</p> <p>2. 保健師助産師看護師職能合同交流会  日 時：令和4年10月15日 13：00～16：30（会場）  令和4年11月1日～11月30日（オンデマンド配信）  場 所：兵庫県看護協会会館  内 容：性の多様性と看護について一緒に考えてみよう  講 演：1）医療スタッフが知っておきたいLGBTQ/SOGIの基礎知識  講 師：岡山大学学術研究院保健学域 教授 中塚幹也 氏  2）性の多様性と看護  講 師：大手前大学国際看護学部 教授 藤井ひろみ 氏</p> <p>3. 近畿地区助産師職能合同研修会（大阪府看護協会主催）  近畿地区の助産師間の交流を目的とした研修会へ参加する。  日 時：令和4年12月10日 10：00～12：00  場 所：大阪府看護協会（オンライン配信）  テーマ：助産師本来の役割を再確認しよう！  講 師：公益社団法人日本看護協会 常任理事 井本寛子 氏</p> <p>4. 兵庫県看護協会が主催する助産師資質向上研修の支援  助産師実践能力向上研修会5回（6月・8月・11月2回・12月）</p> <p>5. 産後ケア事業に関する取り組み  1）学会発表（第63回日本母性衛生学会2題）  論文投稿（神戸女子大学看護学部紀要）  2）研究結果から抽出された課題に対する取り組みとして保健師職能委員と合同会議を開催した。</p> <p>6. 保健師助産師合同会議  日 時：令和4年12月3日 10：00～12：00  場 所：兵庫県看護協会会館  内 容：情報提供「母子保健の現状 妊娠期から切れ目のない子育て支援」  兵庫県保健医療部健康増進課 副課長 山下久美 氏  「神戸市の母子保健事業」（産後ケア）  神戸市介護保険課担当課長 菅澄子 氏  フリーディスカッション</p>
<p>■活動の評価</p>	<p>1. 全世代型地域包括ケアシステム推進に向け多職種連携の構築を図る。  兵庫県看護協会が主催する助産師資質向上研修の支援を実施した。参加した方からは好評価であったものの、全体として参加者が少なく、課題が残った。</p>

	<p>産後ケア事業に対する取り組みとして、昨年から実施していた文献検討の結果を第63回日本母性衛生学会にて発表した。学会発表では文献を用いて国内における産後ケア事業の利用状況や利用に向けた提供者側からの課題、利用者側からの課題を明らかにした。本研究の目的と一致した13件の文献から分析した。その結果、利用者の特徴として初産婦が多いこと、30歳代が多いこと、宿泊型の利用が多かった。ケア提供は、直接的なケアと保健指導を主とした間接的なケアに分類された。そのうち、間接的なケアはセルフケア維持・向上の指導であり、5つの内容に分けられた。</p> <p>「育児技術獲得のための指導」、「授乳に関する技術獲得のための指導」、「母親の体調コントロールに向けた指導」、「家族役割調整に向けた指導」、「社会資源の情報提供」であった。提供者から見えた課題には「ケア提供に向けた事前準備の課題」、「手技に対する困難感への課題」、「施設に関する課題」、「行政側の課題」であった。受け手側から見えた課題は「ケア内容に対する要望」、「経済的負担」、「情報不足」であった。提供者、受け手側の両方ともに情報発信に対する課題を感じていた。そこから、見出された課題として、行政と施設との連携を図る取り組みの必要があるとわかった。そこで、兵庫県内の産後ケア事業の現状把握と分析の実施に向けて、保健師職能委員と合同で会議を実施し意見交換を行った。</p> <p>2. 助産師間、および他職種間との連携を強化する。</p> <p>今年度は、保健師職能が主催した保健師助産師看護師合同職能集会、助産師職能が主催した保健師助産師看護師合同交流会を実施した。</p> <p>保健師助産師看護師合同職能集会では、昨年度の活動報告と今年度の活動計画について報告を行った。基調講演では、「長引くコロナ禍の今、大切にしたい看護職の心のケア」と題して、社会が医療従事者への関心を払うことへの重要性について話された。このことより、支援者が受けるストレス軽減を図る大切さについて理解した。</p> <p>保健師助産師看護師合同交流会では、「性の多様性と看護について」と題して、2名の専門家より講義を受けた。基本的な知識について説明を受けたのち、グループワークを行った。活発な意見交換により、身近に経験しているとわかった。多様な性を生きる人たちの生活をイメージし、健康を守るための看護ケアについて考える機会を得た。</p>
<p>■今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、三職能における職能集会や交流会を実施し、助産師間および他職種間との連携を図る。</li> <li>・全世代型地域包括ケアシステム推進における産後ケア事業に向けて保健師との交流を強化する。</li> <li>・研修会への参加者数増加に向けて取り組む。</li> </ul>
<p>■看護協会への提言・要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後ケア事業を含めた母子の地域包括ケアシステムの推進</li> <li>・研修への申し込みシステムや費用に対する改善</li> <li>・全国統一化に向けた働きかけ</li> <li>①産後ケア事業の費用やシステム</li> <li>②妊婦健康診査受診券や新生児聴覚検査受診券・2週間健診受診券の費用やシステム</li> <li>・アドバンス助産師の効果的な活用と診療報酬への反映</li> <li>・助産師の処遇改善</li> </ul>